

山形県のそば

新品種

でわかおり

栽培マニュアル

山形県



美味しいそば「でわかおり」の栽培法

1. 品種特性

- (1) 山形県立農業試験場で育成した大粒の品種です。
- (2) 開花期は「最上早生」と同時期で、成熟期は「最上早生」より3日程度、「階上早生」より8日程度遅くなります。開花期は9月上旬で、成熟期は10月中旬です。
- (3) 草丈は、「最上早生」より短く、耐倒伏性、脱粒性は、「階上早生」より優れています。
- (4) 製粉白度、そばとしての香りが高く、良食味です。

2. 栽培のポイント

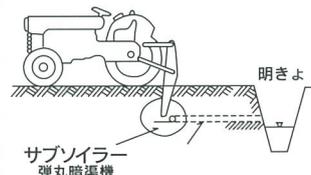
1. 排水対策 (水田畑地化の場合)

そばは
湿害に
弱い

- ① 出芽時に1~2日の冠水に合うと著しい生育不良となります。
- ② 地下水位10cm以上では生育が不良となり、雑草が多発します。
- ③ 登熟期の停滞水は、収量を半減させ、品質・食味は低下します。

排水
対策の
徹底

- ① 団地化・畑地化に取り組みます。
- ② 明きよ・排水溝を設置します。
- ③ 耕盤を破碎するための弾丸暗きよを行います。



2. 耕起

- (1) 耕深は15cm以上とします。
- (2) 碎土を丁寧に行い、直径1cm以下の土塊が60%以上となるようにします。
- (3) 荒耕(6月上旬)と播種直前の2回耕起します。

3. 施肥

- (1) 基肥は10a当たり窒素2kg、リン酸7kg、カリ7kgを基本とします。
- (2) すいか等野菜の後作では、無窒素とし、リン酸、カリのみ施用します。



4. 播種

- (1) 平坦部の播種適期は8月上旬、中山間部では7月下旬です。
- (2) 10a当たりの播種量は、ドリル播きで6kg、散播で9kgです。
- (3) ドリル播きの条間は20～30cmです。

5. 適期収穫

(1) コンバイン収穫適期の目安

- ・子実の黒化率が80%程度、水分が30%以下となったら、収穫適期です。

水分計測:米麦用水分計ライスタL
換算式「そば水分=1.2X(玄そばの水分測定値)-3.1」

(2) 刈り取り期間

- ・上記の(1)に達した日から、12日間です。

(3) 収穫のポイント

- ・石や土が混入しないように注意します。
- ・雨露が上がって、茎葉が乾燥してから刈り取ります。
- ・収穫後1時間以内に乾燥機へ張り込みます。



6. 風味を活かす乾燥調製

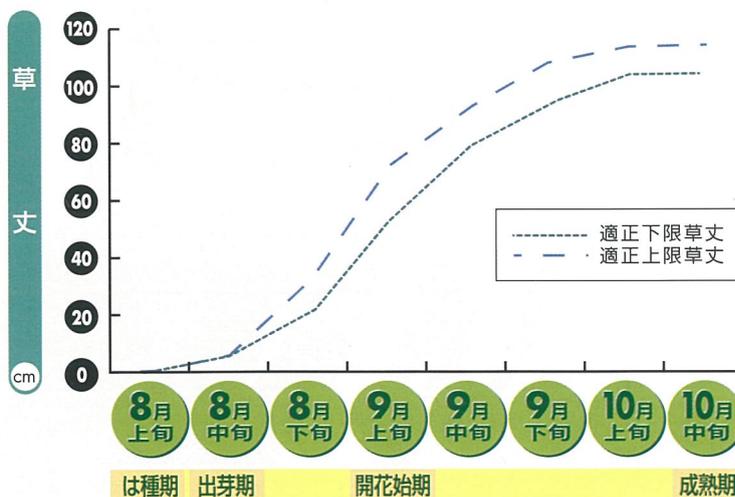
(1) 乾燥

- ・循環型乾燥機での毎時乾減率は1%未満とします。
- ・乾燥機の通風温度は外気温+10℃が上限(30℃以下)です。
- ・穀粒水分が20%になったら、5時間程度乾燥を休止し、その後仕上げの乾燥をします。

(2) 調製

- ・唐箕+回転型米選機(2.4mm)または、水稻用の揺動選別機で選別します。
- ・石抜き機で石や土塊を除去します。

でわかおりの
適正な草丈の推移



でわかおり栽培暦

| 月 | 6月 | | | 7月 | | | 8月 | | | 9月 | | | 10月 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------------|---|---|-----------|---|---|-------|---|---|----|---|---|-----|---|---|-----|--|--|-----|--|--|-----|--|--|----|--|--|------|--|--|
| 旬 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 管理作業 | 耕起 (荒耕) | | | 明きよ・排水溝設置 | | | 施肥・耕起 | | | 播種 | | | 出芽期 | | | 開花期 | | | 開花盛 | | | 開花終 | | | 収穫 | | | 乾燥調製 | | |

| 栽植様式 | 播種量 | 条間 | 播種期 | 覆土 | 苗立数 | 千粒重 | 目標収量 |
|-------|---------|-------------------|-------------------|---------------|-------------------------|-----|---------------------------|
| ドリルまき | 6kg/10a | 20cm } 30cm | 7月下旬 } 8月上旬 | 1 } 2cm | 150 本/m ² | 38g | 100 } 150 kg/10a |

大豆・そば・麦
生産性品質向上運動

そばの生産性品質向上に向けたポイント

- ① 県産オリジナル品種「でわかおり」と「最上早生」の産地化
- ② 畦立栽培・明きよの設置など排水対策の徹底による単収の向上
- ③ 適期収穫や常温通風乾燥による風味豊かなそばづくり
- ④ 集荷率と受検率の向上によるそば流通の安定

大豆・そば・麦生産性品質向上コンクールに参加しよう!

※詳しい内容は、最寄りの総合支庁産業経済部農業振興課まで